

July 11, 2019

【前日の為替概況】パウエル FRB 議長議会証言でドル反落、対円 108.35 円、ユーロ 1.1264 ドル

10日のニューヨーク外国為替市場でドル円は5営業日ぶりに反落。終値は108.46円と前営業日NY終値(108.85円)と比べて39銭程度のドル安水準だった。パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の米下院金融サービス委員会での証言原稿で「前回合会以降の不透明感が引き続き見通しを曇らせている」「貿易や世界経済の成長見通しに不透明感」「米景気拡大を支えるため適切に行動する用意がある」との見解を示すと、米早期利下げ観測が高まりドル売りが先行した。質疑応答では、6月米雇用統計で雇用者数が予想以上に増えたが「FRBの政策見通しに影響はない」と答え、「中国との通商交渉再開は良い兆候だが、不確実性は完全に拭い去れない」との見方を示した。米長期金利の低下とともにドル売りが優勢となった。

6月18日-19日分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨で「リスクが高まる中、多くの当局者が利下げの根拠が強まったと認識」との見解が示されると、ドル安が進み108.35円と日通し安値を付けた。

ユーロドルは4日ぶり反発。終値は1.1251ドルと前営業日NY終値(1.1208ドル)と比べて0.0043ドル程度のユーロ高水準だった。パウエルFRB議長の議会証言が今月末の利下げを示唆する内容だったことから、全般ドル安が進み1.1264ドルと日通し高値を付けた。主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時97.04まで低下した。ユーロ円はほぼ横ばい。終値は122.03円と前日NY終値(122.00円)と比べて3銭程度のユーロ高水準。日本時間夕刻に122.32円と日通し高値を付けたあとはドル円の下落につれた売りが出て121.98円付近まで押し戻された。

米ドルカナダドルは荒い値動き。パウエルFRB議長の議会証言原稿をきっかけに米ドル売り・カナダドル買いが先行し、1.3070カナダドル付近まで下落した。ただ、カナダ銀行(BOC、カナダ中央銀行)は市場予想通り政策金利を据え置いた際の声明で「最近のデータによるとカナダ経済は潜在成長率が持ち直していることを示唆」としながらも、「見通しは持続的な貿易摩擦によって曇っている」などと指摘。「想定よりハト派的な内容だった」と受け止められ、カナダドル売りで反応した。米中貿易摩擦の影響を考慮し世界成長率見通しを下方修正し、インフレ率についても「今年は低下する可能性がある」としたこともカナダドルの重しとなり、一時1.3144カナダドルまで上昇した。パウエルFRB議長の質疑応答やFOMC議事要旨を受けて再び米ドル売りが強まると、1.3062カナダドルの本日安値まで押し戻された。

【本日の東京為替見通し】ドル円、パウエル FRB 議長の利下げ示唆で軟調推移か

※訂正：利下げ確率 0.25%が75.5%、0.50%が24.5%

本日の東京市場のドル円は、パウエルFRB議長が議会証言で世界経済の減速や貿易問題への警戒感から「適切に行動する」と利下げへの意欲を示唆したことで軟調推移が予想される。

パウエルFRB議長の利下げ示唆を受けて、7月30-31日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利下げ確率は、0.25%が75.5%、0.50%が24.5%となっており、年末に向けた追加利下げへの警戒感もドル円の上値を抑える要因となる。

グリーンズパン第13代FRB議長は「金融政策をよく表す特徴は『不確実性』だ」と語っていたが、パウエルFRB議長は議会証言で26回も「不確実性」を連呼したことで、利下げへの転換は、トランプ米大統領による利下げ要請ではなく、米中貿易戦争や中東の地政学リスクを巡る「不確実性」にあると弁明した。すなわち、史上最長の景気拡大期の中で、失業率は歴史的な低水準となり、ニューヨーク株式市場が史上最高値を更新する環境下での予防的利下げの理由は、米連邦準備理事会(FRB)の伝家の宝刀である「不確実性」にあることになる。

ドル円の上値を抑える「不確実性」要因としては、イラン情勢を巡る地政学リスクや休戦中の米中通商協議の難航懸念、来月の日米通商協議への警戒感、そして、トランプ米大統領が「為替操作ゲーム」を傍観することは間抜けとしてドル売り介入の可能性を示唆していることなどが挙げられる。

ドル円のテクニカル分析での攻防の分岐点は、1月3日のフラッシュ・クラッシュ時の安値104.87円からダブルトップ(112.14円・112.40円)の高値までの半値押し108.64円、一目均衡表・転換線の108.26円となる。

オーダー状況は、108.50円に本日のNYカットオプションが控え、上値には109.00円にはドル売りオーダー、超えるとストップロス買いが控え、NYカットオプションが控えており、下値には108.30円と108.00円にドル買いオーダー、108.20円割れにはストップロスが控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

○13:30 ◇ 5月第三次産業活動指数（予想：前月比▲0.1%）

<海外>

○08:01 ◇ 6月英王立公認不動産鑑定士協会（RICS）住宅価格（予想：▲12）

○15:00 ◎ 6月独消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比0.3%/前年比1.6%）

○15:45 ◇ 6月仏CPI改定値（予想：前月比0.2%/前年比1.2%）

○16:00 ◇ 5月トルコ経常収支（予想：3.4億ドルの黒字）

○16:30 ◎ 6月スウェーデンCPI（予想：前月比▲0.1%/前年比1.9%）

コア指数（予想：前月比▲0.1%/前年比1.8%）

○18:30 ◎ 英中銀（BOE）、金融安定報告書を公表

○19:15 ◎ クーレ欧州中央銀行（ECB）理事、講演

○20:30 ☆ ECB理事会議事要旨（6月6日-6月7日分）

○21:00 ◎ 5月ブラジル小売売上高指数（予想：前年同月比1.3%）

○21:30 ☆ 6月米CPI（予想：前月比0.0%/前年比1.6%）

☆ エネルギーと食品を除くコア指数（予想：前月比0.2%/前年比2.0%）

○21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数/失業保険継続受給者数（予想：22.3万件/168.5万人）

○21:30 ◇ 5月カナダ新築住宅価格指数（予想：前月比0.1%）

○23:00 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、米上院銀行委員会で証言

○12日 00:10 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演

○12日 01:15 ◎ ボスティック米アトランタ連銀総裁、講演

○12日 01:30 ◎ パーキン米リッチモンド連銀総裁、講演

○12日 02:00 ◎ 米財務省、30年債入札

○12日 03:00 ◎ 6月米月次財政収支（予想：79億ドルの赤字）

○12日 06:00 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

10日 15:03 イラン外務省報道官

「フランスの核合意維持への努力を歓迎する」

10日 16:23 ジョージ・ミカンザス・シティー連銀総裁

「インフレ期待が急上昇する気配はないが、ないとは言えない」「低金利の過度の長期化は利回り追求のインセンティブを生むリスク」

10日 18:23 欧州委員会

「19年ユーロ圏 GDP 見通し+1.2%(前回から横ばい)、20年見通しは+1.4%(前回+1.5%から下方修正)」

10日 19:57 フォンデアライエン次期欧州委員長

「英国がEUに留まることを依然として望んでいる」「EU資本市場の統合がとても重要」

10日 20:46 メルケル独首相

「ギリシャ新首相はすぐにも改革プログラムを実施すると約束。ギリシャへの支援策を変更する必要はない」

10日 21:33 ロペス・オブラドール・メキシコ大統領

「政権内で他にも辞任するメンバーがでる可能性も」「ペソの下落は一時的であり、後に強くなる」

10日 21:33 パウエル FRB 議長

「6月FOMC以降の不透明感が引き続き見通しを曇らせている」「インフレ圧力は依然として弱い」

「貿易や世界経済の成長見通しに不透明感」

「リブラ(Facebookの仮想通貨)に対しては、プライバシー、マネーロンダリング、金融の安定において非常に懸念している」

「トランプ米大統領が辞任しろと要求されても辞めない」

「(6月の雇用統計の数値結果をみて見通しを変えたかとの問いに)変えていない」

「6月の雇用指標で、FRBの経済見通しを根本的に変えることはなかった」

「中国との通商交渉再開は良い兆候だが、不確実性は完全に拭い去れない」

「過熱している労働市場は、現時点での重要な問題ではない」

「メキシコとカナダとの通商交渉成立は、ポジティブで不確実性を取り除くことにもなる」

「財政政策は非常に力強く、金融政策よりも強力だ」

10日 23:04 カナダ銀行(BOC)声明

「最近のデータによるとカナダ経済は潜在成長率が持ち直していることを示唆。ただ、見通しは持続的な貿易摩擦によって曇っている」

「理事会は緩和的な政策金利が引き続き正当化されると判断」

「将来の政策を決定するにあたり、エネルギーセクターの進展と貿易摩擦による成長・インフレ見通しに対する影響を監視する」

「最近の食料や自動車価格の上昇圧力を受けて、インフレ率は2%前後で推移」

「コアインフレ率も2%近くにとどまっている」

「ガソリン価格やその他の一時的な要因により、インフレ率は今年低下する可能性がある」

「一時的な影響が弱まるにつれて、インフレ率は2020年半ばまでに2%まで持続的に回復すると予想」

「継続的な貿易摩擦が世界の経済見通しに重大な影響を及ぼしているという証拠が蓄積されている」

「米国と中国の間の貿易摩擦は製造業と投資を抑制し、商品価格を押し下げている」

10日 23:19 トランプ米大統領

「イランへの制裁を大規模に、まもなく増やすだろう」

11日 00:24 ウィルキンス BOC 副総裁

「輸出が引き続き最大の不確定要素だ」

「貿易戦争が2021年までにカナダのGDPを2%程度削減させる」

11日 00:31 ポロズ BOC 総裁

「カナダドルの上昇は、カナダの競争力を弱めている」

11日 02:19 テンレイロ MPC 委員

「スムーズな英EU離脱なら若干の金融引き締めが必要になる可能性」

「今後数カ月はインフレ圧力の上昇を予想せず」

「貿易摩擦で世界経済の更なる下振れリスクが高まっている」

11日 03:03 FOMC 議事要旨

「リスクが高まる中、多くの当局者が利下げの根拠が強まったと認識」

「数人の当局者は利下げの根拠が強まったと認識せず」

「多くの当局者は短期的にFEDのさらなる緩和は正当化されると判断」

「数人の当局者は近い将来の利下げは衝撃への緩衝材と認識」

「多くの当局者はインフレ期待が2%の目標と矛盾していると判断」

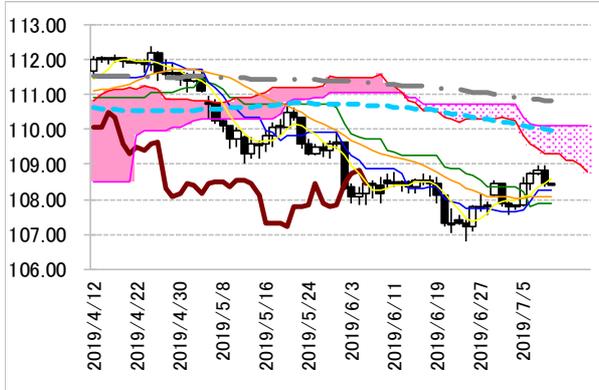
11日 03:54 ブラード米セントルイス連銀総裁

「25bpの利下げは大きな影響を与えないだろう」

「利下げは経済の急降下と低インフレになった時の保険」

「現時点での50bpの利下げは行き過ぎ、緩やかな利下げが必要」

〔日足一目均衡表分析〕

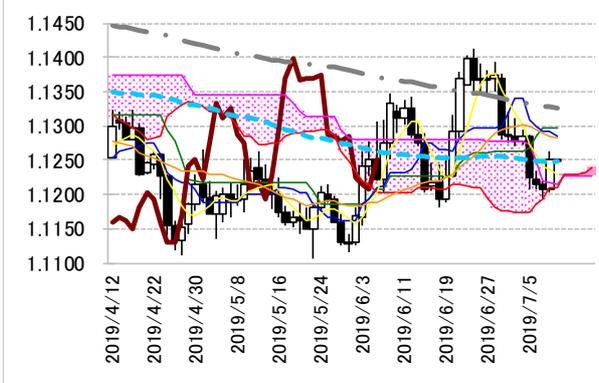


<ドル円=雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンと実線は同値となり、雲の下で推移しているものの、一目・転換線を上回っていることで買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、3手連続陽線の後の高値圏での抱き線で反落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	110.11(日足一目均衡表・雲の上限)
レジスタンス 1	109.32(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	108.46
サポート 1	107.89(日足一目均衡表・基準線)

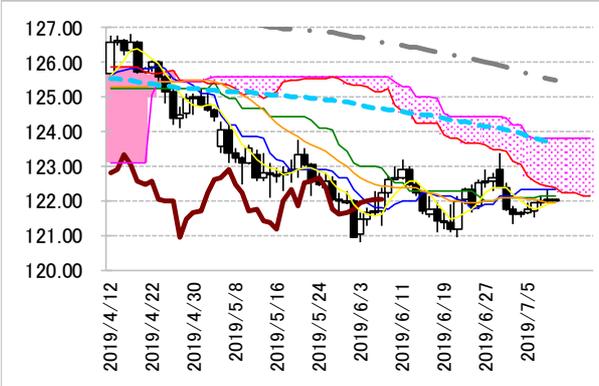


<ユーロドル=雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、雲を上回ったことで、買いシグナルが優勢な展開となっている。底値圏での抱き線が反発の可能性を示唆している。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1297(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1251
サポート 1	1.1216(日足一目均衡表・雲の上限)

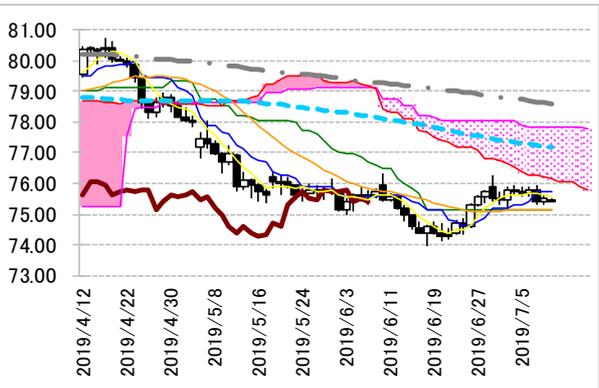


<ユーロ円=雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

小陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、転換線 122.34 円や基準線 122.16 円を念頭に置いて、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	122.37(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	122.03
サポート 1	121.32(7/3 安値)



<豪ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。基準線を下抜けた場合は、追撃売りか。

レジスタンス 1	75.71(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	75.49
サポート 1	75.12(日足一目均衡表・基準線)

